

COC Monthly News Letter

COC: Center of Community (地(知)の拠点)

Yamanashi Prefectural University

山梨県立大学の地域貢献
活動を毎月1回お届けします。

2016年6月号

Vol.

25

グローバルな知の拠点となる大学
未来の実践的担い手を育てる大学
地域に開かれ地域と向き合う大学

Topics

最新のニュース・話題など大学での出来事をお伝えします。

◇がんケアカフェ開催

先日5月20日(金)、本学池田キャンパスにおいてCOC事業「がん予防とがんサバイバーのための癒しカフェプロジェクト」で、「がんケアカフェ」が行われました。

『がん看護学』の講義で看護学部の学生とがん患者さんとの語らいの場から、がん患者の心理を理解するのが目的で、希望(のぞみ)の会サバイバー(がん患者)11名をお招きして、がん患者さんの辛さや希望について語って頂き、学生へのエールもたくさん頂戴しました。

- ・看護師の「看」は目の上に手という字で出来ているけれど、「目」と「手」だけでは、看護は出来ない、患者さん目線での配慮が必要。
- ・看護師の笑顔は患者の笑顔にも繋がる。
- ・仕事を、きちんとしていくことで、レベルアップや信頼にも繋がっていく。また、仕事をきちんとしていけば、自身の生きがいにもなり自然と笑顔にもなる。笑顔になるには、“こころ”と“からだ”が大切。
- ・患者の声に耳を傾ける看護師であって欲しい。

このように、サバイバーの方たちからたくさんの言葉のシャワーをあびました。

イベント情報

気になる話題の情報やためになる講習会や研修会をご紹介します。

◇2016日本で生活する外国人のための「日本語・日本文化講座」

◇レベル 会話1(入門)、会話2(初級)、会話4(初中級)、文字クラス(漢字と語彙)

◇講座日(各日曜日) ※諸事情により変更する場合があります。

6月 5日・12日・19日・26日

7月 3日・10日・24日 ※24日は文化講座「川柳」

10月 2日・16日・23日・30日

11月 13日・27日

12月 4日・11日 ※11日は文化講座「茶道」

◇時間 13:00~15:00

◇場所 山梨県立大学 飯田キャンパス A館6階(A606他)

◇受講料 無料(ただし、教材費2,000円~3,000円は自己負担)

◇駐車場 あり(ただし、駐車可能台数に限りがございます。)

◇申込み 不要 ※開始時間までにA館6階へお越しください。

※レベルについては、当日講師の先生と相談してお決めください。

※すべての回に出席しなければいけないということはありません。

◇問い合わせ 山梨県立大学学務課 055-224-5260(平日9:00-17:00)

甲府市市民課 055-237-5337

今月のプロジェクト 大学が自信を持っておすすめするプロジェクトのご案内。

<山間の過疎集落の支援プロジェクト>

国際政策学部 総合政策学科 准教授 箕浦一哉

過疎が進む農山村では、本来は住民が協力しておこなう環境整備や農作業を続けることが困難になった集落が多くあります。ご縁があって私たちが関わるようになった南巨摩郡早川町のある集落もそのひとつです。環境社会学ゼミの地域貢献と学生教育を兼ねた課外プロジェクトとして、学生たちが集落作業のお手伝いをさせていただくことになりました。

昨年から何回か顔合わせを重ね、この4月23日土曜日に初めて集落作業に参加しました。この日は学生5名が集落の方々と一緒に、集落のまわりの道や神社の境内の清掃作業に取り組みました。林の中でのゴミ拾いでは不法投棄の家電製品を見つけたりもしました。作業が一段落したあとは、タケノコ掘りを体験させてもらいました。夜にはバーベキューをしながら懇親のひとときを持ちました。

人の少ない集落のお手伝いできたということと、ふだんできない体験をさせてもらったことで、学生たちは充実感を感じていました。また、地元の方と交流したり、集落の様子を見たりすることを通じて、山間地の地域社会や生活環境について実感をもって学んでいます。



<集落清掃>



<たけのこ掘り>

担当教員紹介 個性派揃いの優秀な教員の意外な素顔を紹介します。

<国際政策学部 総合政策学科 准教授 箕浦一哉>

私は、地域社会における環境と人びとの関わりについて、社会学的フィールドワークに基づいた研究を行っています。自然環境や景観の保全に関する住民主体の活動や、住民・行政の協働に関心を持ち、当事者の方々にお話を伺ったり、活動の現場に赴いたりしています。また、都市から地方への移住者の地域コミュニティへの参加のあり方や、中山間地域の住民が保持してきた環境認識・環境利用・環境保全の技術や文化についても関心を持っています。

特に私が長く研究してきた対象は「音の環境」です。音を風景としてとらえる「サウンドスケープ」の考え方にもとづいて、織物産業地域などをフィールドにした研究をおこなっています。また、国内外の音環境保全政策に関する調査をもとに、社会的・文化的要素を重視した音環境マネジメントの方法を研究しています。

名古屋市で高校卒業まで暮らし、関西の大学に進学して12年間を京都市と兵庫県西宮市で過ごしました。その後、山梨県立大学の前身の県立女子短期大学に着任して、住まいも甲府に移しました。山梨暮らしもいつの間にか17年目になり、もうしばらくすると人生で一番長く住んだ場所になりそうです。



国際政策学部 / 箕浦一哉准教授

編集後記

梅雨入り前の最も過ごしやすい時期ですが、今年の5月は少々気温が高めだったように思います。これから、まもなくすると梅雨入りとなります。季節毎の楽しみをみつけて、充実した毎日を過ごしたいと思います。